



学校運営協議会だより

◇ 保護者・地域の皆様へ

学校運営協議会会長 山崎すみ子

保護者・地域の皆様には、日頃より本校のコミュニティ・スクールの推進にご理解・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。「コミュニティ・スクール」は、「学校運営協議会」が設置された学校の通称であり、本校は平成30年度より教育委員会の指定となっています。「学校運営協議会」は、保護者や地域住民の代表の方、有識者などで構成され、学校経営の基本的な方針の承認や課題等について熟議を行い、子どもたちの健やかな育ちに向けて取り組んでいます。

今年度のスタートにあたり、コミュニティ・スクールの一層の振興・充実を期するため、学校長との協議を経て保護者・教職員の皆様にご協力をいただき、アンケート調査を実施いたしました。その結果集約ができましたので、保護者・地域の皆様にご報告させていただきます。今回の調査を通して、学校経営に関わる現状把握と課題等を捉えることができましたので、今後の貴重な資料として相互共有を図りながら改善・改革に努めてまいります。

◇ コミュニティ・スクールの推進に関わるアンケート調査の結果報告

設問1 コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の役割などについて

選 択 肢	保護者	教職員
① よく知っている	1%	10%
② 知っている	8%	47%
③ あまり分らない	54%	43%
④ 分からない	37%	0%

考 察

設問1は、コミュニティ・スクールの役割の認知度を調査したものである。保護者の結果は、①、②を合わせて9%の数値は、保護者・地域への周知・啓発の取組みが不十分であったと捉えられる。保護者・地域の方々の認知度が高まることで、コミュニティ・スク

ールが目指すねらいが理解されていくものであり、周知・啓発の方法を含めて検討が必要である。教職員の結果は、①、②で57%の数値であるが、指定開始から5年を経過する中での数値としてはもう少し高い数値が期待される。今後のコミュニティ・スクールの効果的な活用・推進を図っていくためにも、教職員の理解は前提条件であり十分な意識化が必要である。

設問2 本校の教育活動に期待されていることについて

選 択 肢	保護者	順位	教職員	順位
① 自ら学ぼうとする意欲の向上について	73.6%	1	73.3%	1
⑤ 教科の基礎学力の定着について	49.4%	5	70.0%	3
⑦ 社会のマナーやルールの習得について	60.8%	3	73.3%	1
⑨ 善悪の判断ができる力の育成について	4.2%	15	56.7%	5
⑪ 自分の考えを表現する力の育成について	59.6%	4	53.3%	6
⑫ 人間関係を築く力の育成について	63.0%	2	66.7%	4

考 察

設問2は、本校に期待する教育活動について調査したものである。保護者の結果は、①、⑫、⑦、⑪、⑤の順に高い数値

である。中でも、①、⑤、⑪、⑫などは、予測不可能な社会に生きる子どもたちに必要な取り組みであり、新学習指導要領においても重要視されている。これらの資質・能力を培っていくために、学

校・保護者・地域がそれぞれの役割としてどのような連携・協働ができるかを明確化して取組んでいく必要がある。教職員の結果は、⑨の数値は保護者と開きがあるが、⑪は同じような数値であり共通した認識であると捉えられる。その他の選択肢も大切ではあるが、一つの方向性として共通している教育活動については、さらに具体的な取組みを通して充実を図っていく必要がある。

設問3 本校の教職員に望むこと、期待することについて（教職員として重視していること）

選 択 肢	保護者	順位	教職員	順位
① 教師の目が一人ひとりの児童に行き届いた指導ができる	59.2%	2	43.3%	5
② 確かな授業力を身に付け、児童へのきめ細かな指導ができる	37.7%	6	53.3%	3
④ 教育者としての職責や義務を自覚して職務に取り組むことができる	30.2%	8	43.3%	5
⑤ 人との関わりを大切にし、円滑な人間関係を築くことができる	54.0%	3	73.3%	1
⑥ 児童に対する教育的愛情と教育に対する使命感をもっている	37.0%	7	63.3%	2
⑦ 児童の成長と発達を理解し、悩みや思いを受けとめて指導できる	77.7%	1	50.0%	4
⑩ 社会や児童の変化を的確に受け止め、柔軟に対応できる	51.7%	4	23.3%	10
⑭ 指導方針や状況等について、保護者等と十分連携を図ることができる	38.5%	5	16.7%	12

考 察

設問3は、保護者が教職員に期待することについての調査である。保護者の結果は、⑦がもっとも高い数値である。これは教師としての基本的な資質・能力であり、真摯に受け止めて保護者の期待に応えられる人材育成を図っていく必要がある。さらに、①、⑤、⑩、⑭も高い数値を示しており、予測困難な社会に生き抜いていく子供たちを育成していく上で、いずれもが重要な資質・能力であり保護者と共有して取組んでいく必要がある。教職員の結果は、②、④は教師として備えておきたい資質・能力であり、当然の数値と捉えられる。しかし、⑩、⑭については、保護者の数値と若干の乖離が見られるので、教職員の努力事項として充実を図っていく必要がある。

設問4 お子さんがどのように育ってほしいかについて（児童がどのように育ってほしいか）

選 択 肢	保護者	順位	教職員	順位
① 思いやりのある人	70.9%	1	60.0%	3
② 自分に自信が持てる人	49.8%	4	26.7%	9
⑤ 社会で自立できる人	46.0%	5	56.7%	5
⑥ 友達を大切にできる人	58.5%	2	60.0%	3
⑨ 良い人間関係が築ける人	1.1%	14	66.7%	1
⑩ 約束や決まりが守れる人	40.0%	6	50.0%	6
⑫ 相手の気持ちを考えて行動できる人	57.0%	3	63.3%	2

考 察

設問4は、子どもたちにどのように育ってほしいかを調査したものである。保護者の結果は、①、⑥、⑫、②、⑤の順で高い数値である。

①、⑥、⑫は、道徳性の観点からも他者への積極的な関与ができる姿であり、コミュニケーション力の育成が課題となっている中で、学校・家庭がそれぞれの立場で課題を共有して取組んでいく必要がある。また、②、⑤などは、自己肯定感を高め、どのような世の中でも生き抜いていく力の育成に関わることであり、課題を共有した取組みが求められる。教職員の結果を見ると②、⑨の数値に保護者との開きが捉えられる。教育活動において子供たちの自己肯定感をいかに高めていくかは重要な課題でもあり、保護者に理解の得られる具体的な活動に取組んでいく必要がある。

設問5 どんな学校であってほしいかについて

選 択 肢	保護者	順位	教職員	順位
① いじめや荒れのない学校	85.7%	1	60.0%	5
⑤ 子どもにとって活力のある学校	68.3%	2	76.7%	1
⑥ あいさつやきまりを守ることができる学校	44.5%	5	66.7%	3
⑧ 学校規律や生活規律がしっかりしている学校	18.5%	9	70.0%	2
⑨ みんなが仲良くできる学校	0.8%	13	40.0%	6
⑩ 教員との信頼関係ができる学校	64.9%	3	63.3%	4
⑫ 相談事が気軽にできる学校	48.7%	4	40.0%	6

考 察

設問5は、学校にどのようなことを期待しているかについての調査である。保護者の結果は

①、⑤、⑩、⑫、⑥の順に高い数値である。学校としては、保護者の意向をしっかりと受け止めて、具体的な改善方策を立てるためにも現状把握を踏まえて取り組んでいく必要がある。特に⑩、⑫などは、学校・家庭が連携・協働して共育を推進していく上でも、保護者に具体的な取組みを示していく必要がある。教職員の結果は、⑧、⑨の数値で保護者との乖離があるので、その要因についての考察が必要である。その他はほぼ同様の捉え方であり、本校が目指す学校像について、保護者と共有した方向性をより明確に示していくことができると捉えられる。

設問6 学校と地域はどのような関係が望ましいかについて

選 択 肢	保護者	順位	教職員	順位
① 地域の人が学校施設を活用してスポーツや文化活動のできる学校	46.4%	5	50.0%	4
② 子どもたちが地域のお祭りなど地域行事に参加する学校	56.6%	2	53.3%	3
③ 避難場所や防災施設としての設備が整った学校	67.5%	1	63.3%	2
④ 子どもたちが地域のボランティア活動などに取り組む学校w	49.4%	4	33.3%	5
⑤ 様々な地域活動の中心的な存在としての学校	24.9%	6	26.7%	6
⑥ 「地域とともにある学校」として地域住民に信頼のある学校	55.1%	3	73.3%	1

考 察

設問6は、学校と地域の関係性をどのように捉えているかの調査である。保護者の結果は、③が高い数値であるが昨今の自然災害等との関連からと推測・判断できる。一方、②については、地域との関わりが希薄になりつつある中で、地域のつながりを求める意識の表れでもあり、これらの具体的な取組みは、まさに「地域とともにある学校」づくりの根幹にかかわる課題でもあり、学校運営協議会、地域学校協働活動の連携・協働の具現化が求められる。

教職員の結果は、⑥の数値は学校として目指す方向性でもあり妥当な選択肢である。若干の順位の違いはあるが、目指すべき関係性はほぼ同様であると捉えられる。

設問7 学校支援ボランティア活動について（保護者のみ）

選 択 肢	保護者	順位
① 積極的に協力したい	3.8%	4
② できることがあれば協力したい	24.5%	2
③ 時間があれば協力したい	50.9%	1
④ 時間的な余裕がないので協力できない	18.5%	3
⑤ 協力したいとは思わない	2.3%	5

考 察

設問7は、学校支援ボランティアについての意識に関する調査である。保護者の結果は、③の「時間があれば協力したい」が約半数を占めていることとからも、地域

の実態として仕事に就いている保護者が多いことが推測できる。これらの実態を受け止めながら、学校としてどのような連携・協働が本校の実情に即したものとなるかを考慮していく必要がある。

設問8 学校の教育活動に地域の方々が関わることで、どんな効果が期待できるかについて

選 択 肢	保護者	順位	教職員	順位
① 子どもたちの体験や経験の場が増える	77.0%	1	76.7%	1
② 地域に開かれた学校になる	34.0%	3	53.3%	2
⑤ 子どもたちのコミュニケーション能力の向上になる	60.8%	2	53.3%	2
⑧ 子どもたちが地域に関心を持つきっかけになる	52.8%	4	43.3%	4
⑨ 学校を核として地域の結びつきが強くなる	18.1%	6	16.7%	6

考 察

設問8は、コミュニティ・スクールを推進していく上で、効果として期待できることについての調査である。保護者の結果は、①、⑥、⑧の順位に高い数値であり、これらのいずれもがコミュニティ・スクールのねらいと合致するものであることから、この取組みをどのように充実させていくかについて、地域学校協働活動に明確に位置づけながら活動していく必要がある。教職員の結果は、保護者との捉え方に大きな乖離は見られない。⑨については、「学校を核として」はコミュニティ・スクールが目指す方向性そのものであり、保護者、教職員の数値が共に低い点が懸念される。コミュニティ・スクールの認知度との関わりからも、連携・協働の質を高めていくことで効果が感じられるような取組みを推進していく必要がある。

◇ コミュニティ・スクール（学校運営協議会）について

近年、子どもたちや地域社会の環境が大きく変化し、Society5.0・グローバル化、地方創生、状況に応じたきめ細かい学習支援、生徒指導上の課題への対応、学校安全の確保など、学校を取り巻く課題はますます複雑化・困難化しています。未来を担う子どもたちの豊かな成長を支えるためには、社会総掛かりでの教育の実現が不可欠であり、和光市教育大綱においても、「福祉、コミュニティ施策との密接な連携による地域・家庭教育の推進」を掲げ、コミュニティ・スクールの円滑な運営や地域学校協働活動の充実こそが、新たな教育の創造や地域活性化の重要な役割を果たすと明示しています。コミュニティ・スクールは、学校運営に対して保護者や地域住民が参画し、学校運営協議会を通して教育に対する課題や目標を共有し、熟議することで、地域と一体となって子どもたちを育む学校づくりをすすめる仕組みであり、学校運営協議会は、コミュニティ・スクールの中核を担う合議制の組織です。学校・家庭・地域・行政がつながり、子どもも大人も地域もともに育ち合う「地域づくり」「人づくり」を目指して参りますので、ご理解・ご協力を宜しく願います。

下新倉小学校運営協議会へのご意見・ご要望について

本校学校運営協議会は、「地域とともに歩む学校づくり」を目指しています。地域と学校の連携・協働等についてご意見・ご提案等がありましたら、ご遠慮なく下記までご連絡ください。

連絡先 下新倉小学校 **電話** 048 - 464-0500 **地域連携担当** 主幹教諭 鈴木 迄